

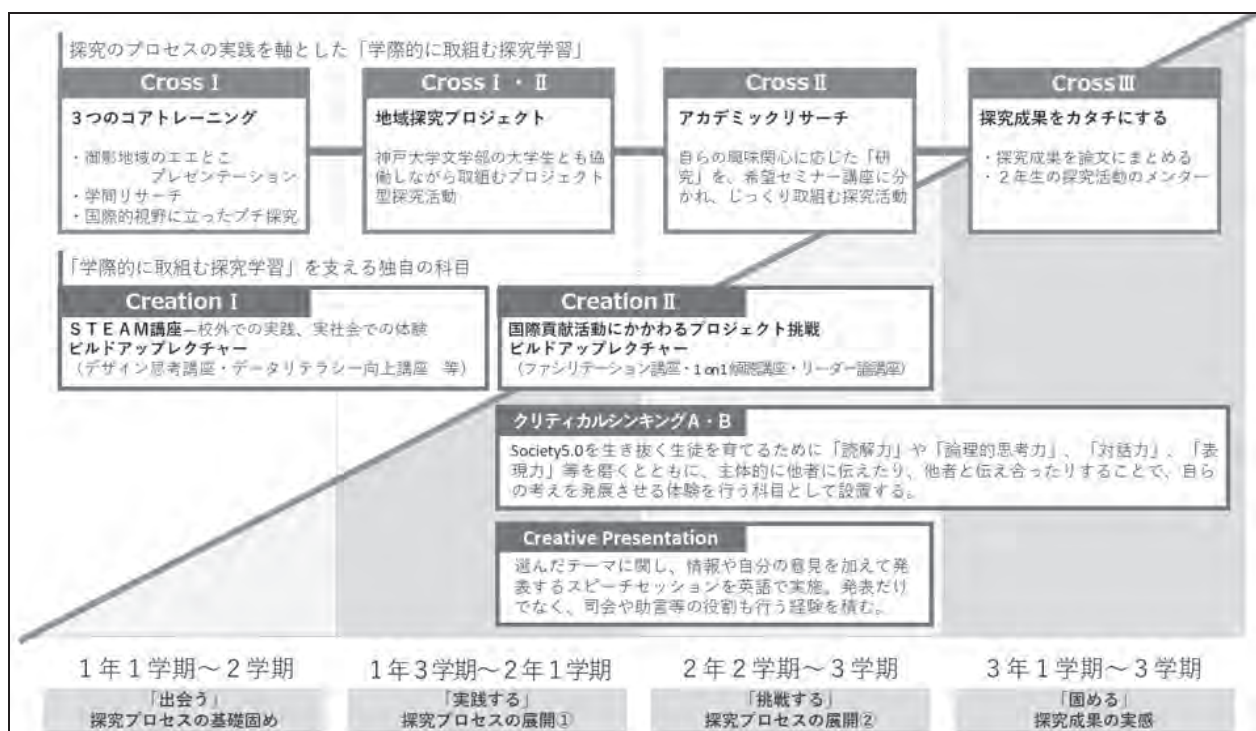
究活動に必要な「自らの知識や経験をもとに、事実等を読解・解釈し、分析する力」や、「原因・結果、意見・根拠等の関係を明らかにし、事実等を他者に分かりやすく伝える力」、「自らの置かれた状況等を客観的に捉える力」を養うことを目標としている。文理探究科に改編される総合人文コースの2年生を対象に、今年度より先行実施した。県教委より、探究に特化した科目として実施するため、外部人材を活用した授業を10時間以上実施するよう指示があった。そのため、今年度より、外部人材を活用した授業も先行的に実施している。

一方、クリティカルシンキングBは、3年生を対象に開講する。この科目は、成立した時代やジャンルを問わず、様々な文章を読むこと等を通じて、現代社会の諸問題に関する多様な知識を深めながら、予測不能な今後の社会で活かせる実践的な読解力を育むとともに、数値やグラフ、論理の妥当性を検討する等の実践を踏まえ、「論文の著者等の主張を的確に捉え、その論理や妥当性を検討する力」や、「複数の視点で論じられている文章や多様な立場で発せられた意見等を、多面的・総合的に考える力」、「受け取り手の立場を鑑みながら、自らの考えを分かりやすく表現する力」を深化させることを目標としている。令和6年度より、総合人文コース3年生を対象に、先行実施を予定している。

(2) Creative Presentation

Creative Presentation は、2年生を対象に、探究に特化した科目として開講する。従来「探究英語」という科目名を仮称として用いていたが、検討を進める過程でCreative Presentationと名称変更することとなった。多様な英文を読み、その中から自ら課題を見つけて調べたことに、意見を加えてプレゼンテーションをする。それぞれの役割に立ち、即興で英文を作り、反応することが必要となるスピーチセッションが行えることを目標に実施する。本科目については、総合人文コースの2年生を対象に、令和6年度より先行実施する予定である。

図3：文理探究科の独自科目



1-7 先行実施事業

■クリエイション講座（STEAM 教育講座）

学際的な探究活動を支える科目として開講する Creation I において実施予定の「STEAM 教育」に関するプレ講座（クリエイション講座）を令和4年度から先行実施してきた。

今年度は、次年度からの本格実施に向け、8月の夏季休業中に各講座3日間・21時間程度の確保を鑑み、周囲の人たちと協働的に解決することのできる、これからの社会のリーダーとして活躍できるような生徒を育てることに注力する講座を展開した。

＜本講座の設計＞

本講座については、各講座は、神戸市内の企業、専門家、および学内教諭・コーディネーターと協働して設計し、地域連携の中での学びを実践する。また、科学・技術・工学・芸術・数学の5つの英単語の頭文字を組み合わせた造語「STEAM 教育」を軸として展開する。しかも、科学 (Science)、技術 (Technology)、工学 (Engineering)、芸術・リベラルアーツ (Arts)、数学 (Mathematics) の複数分野を意識した講座とすることで、知る (探究) とつくる (創造) のサイクルを生み出す、分野横断的な学びを目指す。

1	経営	STEAM 分野：S・T・A
<p>●講座の趣旨</p> <p>①スタートアップ企業のインテリジェンス経営 ②グローバル企業の国際経営、③地元地域に根ざした企業のサステナブル経営、それぞれの経営スタイルを企業訪問とワークショップを通じて学ぶ。企業によってビジョンやミッションも異なるため、「経営」には多様なコンセプトがある。現代の企業の必要なビジネスマインドに触れる。</p> <p>●講座の概要</p> <p>DAY 1（8月9日）【講師：株式会社オシンテック】</p> <p>東灘区御影のフルリモート勤務のスタートアップ企業に、新しい会社像を学ぶとともに、ビジネスやキャリアにおけるゲームチェンジの考え方や、情報に基づくインテリジェンス経営のフレームを学ぶ。AIの活用や環境問題等の現代の企業が直面する課題感にも触れる。</p> <p>DAY 2（8月10日）【講師：ネスレ日本株式会社】</p> <p>神戸に本社を置くグローバルメーカーのビジョン、ミッション、マーケットのトレンドやSDGsを意識した経営などについて本社を訪問して学ぶ。</p> <p>DAY 3（8月23日）【講師：萩原珈琲株式会社】</p> <p>神戸市灘区の老舗珈琲焙煎メーカーの港島焙煎工場を視察。日本で初めて炭火焼き焙煎の手法を確立した技術を知るとともに、大学で生物学を学んだ専務の生物学的経営をワークショップ形式で学ぶ。</p>		
2	里山	STEAM 分野：T・E
<p>●講座の趣旨</p> <p>身近な山である六甲山の森林の現状や活用の事例を学ぶ。また、木材がどのように加工され流通しているのか現場見学を通じて学び取る。国内木材の価格が安く林業が成立しない市場の現状でもユニークな視点で地場の木材を活用してビジネスを成立させるとともに、環境教育環境保全にも取</p>		

り組んでできるコーディネーターの仕事に触れる。

●講座の概要 【講師：SHERE WOODS 山崎正夫氏】

DAY 1（8月7日）

御影高校で座学にて六甲山の森林、木材の課題感や歴史、環境的役割を学ぶ。

DAY 2（8月21日）

神戸市北区の imayama へバスで訪問。神戸大学と連携して植生調査を続けている現場を視察。実際に調査を体験し、IC タグによるマッピングデータの利活用について考える。

DAY 3（8月28日）

北区谷上の製材倉庫を視察し、丸太がどのように製材され木材として流通しているのかを学ぶ。また木材活用についてワークショップを実施する。

3	地域とテクノロジー	STEAM 分野：T・M
---	-----------	--------------

●講座の趣旨

自治体DXのマッチングを事業としているアーバンイノベーションジャパンを講師に迎え、地域産業の経営課題をリサーチし、その課題解決手法をロジカルに考える。またプロトタイプ制作を通じて、プレゼンテーションを学ぶ。テーマは「日本の食・日本酒産業やカーボンゼロの経済について、ありがたい未来をつくるアイデアとテクノロジーを考えよう」。

●講座の概要【講師：一般社団法人アーバンイノベーションジャパン 吉永隆之氏、他1名】

DAY 1（8月25日）【協力：株式会社神戸酒心館】

東灘区の地場産業である日本酒の抱える社会課題を視察、レクチャーを通じてリサーチする。また事前課題として出していたアンケート調査のデータを分析し、アイデアソンを実施。

DAY 2（8月26日）

目標と現状のギャップを REASAS 等のツールを活用しつつ分析。ブレイクスルーさせるためにどんなテクノロジーが必要か、アイデアを出し合う。解決案を考察しアプリや工作などの手法で何らかのプロトタイプを制作する。

DAY 3（8月28日）【協力：神戸市東灘区役所、株式会社神戸酒心館】

東灘区副区長、酒心館の担当者も講評に参加し、アイデアの発表とディスカッションを行う。動画編集やデータ分析などを実践。

4	地震と防災	STEAM 分野：S・A
---	-------	--------------

●講座の趣旨

学校と同じ名前をもつ「御影石」は、以前は近隣で採掘されていた世界で最も美しい花こう岩である。日本列島が大陸に付いていた時代に造られたものであるが、その後、列島が大陸から離れ六甲山ができるまでの地球史の中で、断層や激しい地震が起こってきた。本講座では、御影石をもとに講義と実験をしたり、北淡震災記念公園の野島断層や石屋川公園のフィールドワークを行ったりし、地震と防災のことについて考える。

●講座の概要 【講師：兵庫県立人と自然の博物館特任研究員 竹中敏浩氏】

Day 1（8月1日）

（午前）講義：地震の発生とその被害、観察：御影高校玄関の石材、実験・観察：水簸（すいひ）による石屋川の砂の鉱物観察

（午後）講義：花こう岩の成因、リニアメントと大断層、六甲山の成因と断層、野島断層、地震のメカニズム、東日本大震災と津波

（Day2 への課題）淡路島のトリビアを共有しよう

Day 2（8月2日）

（午前）見学：淡路SAから明石海峡大橋と六甲山を見る

見学：北淡震災記念公園（断層保存館・断層トレンチ・メモリアルハウス＝震災当時の状況を保存した家屋）訪問

（午後）見学：うずの丘大鳴門峡記念館、および、うずしお科学館訪問

（バス内での発表）：淡路島のトリビアを発表しよう

Day 3（8月3日）

（午前）講義：宮水と神戸ウォーター、都賀川水難事故、見学：天井川としての石屋川の観察

（午後）実験・観察：グランドの土は何からできているか水簸により調べる、講義：花こう岩の風化、六甲山の河川を世界の河川と比較する、宮水、六甲山周辺の水害と防災

5	生物多様性	STEAM 分野：S・A
---	-------	--------------

●講座の趣旨

2泊3日で佐津・柴山へ。日本海にてウニの人工受精をおこない、発生過程を観察。海と山のつながりについて深く考察することを目的とする。

●講座の概要 【講師：本校教諭 大西伸弥】

Day 1（7月30日）

ウニの採集及び人工授精をおこなった。その後、ウニの発生の観察を行った。

Day 2（7月31日）

ウニの発生の観察を引き続き行った。また、魚をはじめとする水生生物の採集を行い、その特徴や生態を観察した。さらに、瀬戸内海と日本海側における漁業の発展の違いや、地形の特徴などについて考察した。

Day 3（8月1日）

ウニの発生の観察を引き続き行った。

6	建築	STEAM 分野：A・E・T
---	----	----------------

●講座の趣旨

①廃屋再生②公共空間の再開発③模型制作ワークショップという多角的な視点で建築に触れ、また体感的に経験することで「ものづくり」の面白さや、社会課題に向き合いクリエイティブな視点

で創造することに関心を持ってもらう。また建築というカテゴリーにおいても様々なキャリア軸を持った建築関係者がいることを知る機会をつくる。

DAY 1（8月4日）【講師：合同会社廃屋 組長 西村周治】

神戸市兵庫区梅村の廃屋群を集落ごと再生し、ギャラリーやレジデンス、茶室等として新しい価値を創造している株式会社廃屋の西村組にて日本の空き家問題を学び、実際にバイソン（梅村）でコンクリート打ちを体験。

DAY 2（8月9日）【講師：神戸市公園整備課】

公共空間の再整備、再開発が進む神戸市の現在地を視察。東遊園地、こども本の森、三宮周辺再整備を軸に公共建築がもたらす暮らし方の変化を知り、市民としても公共空間への「問い」の視点を養う。

DAY 3（8月21日）【講師：阿曾芙美 他5名】

神戸市灘区の建築家阿曾芙美さんによるワークショップ。御影高校校舎をフィールドワークし、学校生活をよりよくする建築物のアイデアを発見し、模型制作を行う。テーブルファシリテーションに建築家5名も参加。

■ビルドアップレクチャー

STEAM 教育講座以外のレクチャーについて、以下のような講座について先行実施した。今後も内容を検討し、Creation I・Creation IIの中で実施する予定。

	講座名	実施日	講師
1	人生における夢・目標とはなにか？ グローバルリーダーって？？	5月25日	椎木睦美氏 NPO 法人 Colorbath
2	lon1 傾聴研修	7月11日	岩木啓子氏 ライフデザイン研究所 FLAP 代表
3	グループディスカッションのファシリテーション講座	7月12日	岩木啓子氏 ライフデザイン研究所 FLAP 代表
4	世界の現状と今後の生き方～エチオピアをもとに～	7月12日	齊藤弘紀氏 GLCA 代表
5	Diane & Elio : what brought two French people to Japan ? ※ALL ENGLISH	10月19日	Elio Brigand 氏 Diane Courtin 氏 県立人と自然の博物館 インターンシップ生

■Cross I・Cross II

総合人文コース独自の探究「Global Study」（総合的な探究の時間）の授業を活用して、Cross I・Cross IIの学びについての先行実施を行っている。なお、Cross I・Cross IIの学びについては、先述した通りであるが、今年度は、昨年度よりも幅広く文理探究科で実践予定の授業内容

を実施し、良好な成果が見られた。

CrossⅡの内容を踏まえた学習活動も、総合人文コース2年生を対象とした「Global StudyⅡ」において、神戸大学と連携した授業や、外部人材を活用した授業等も実施し、取り組んでいるところではあるが、ここでは、特に良好な成果が見られた、次年度から本格実施するCrossⅠで取扱う「御影地域のエエとこプレゼンテーション」や「プチ探究」について述べることにする。

「御影地域のエエとこプレゼンテーション」は、入学したての1年生が班別に取り組む課題で、班で発表するモノや場所を決め、取材対象や発表方法についても考えさせるものである。この学びは、探究活動の基礎を築くことを意図しており、各自のタブレット端末を使いながら、使用法を覚えたり、校外調査にかかる手続きや、その手法、そして、実際に校外に出てフィールドワークを行う手法を知ったりする等、さまざまな事柄を活動に取り組みながら体得するプログラムとなっている。あわせて、校外より、ミニコミ誌を実際に作成されているイラストレーターの方を招聘し、講義をしていただく等、取材や制作方法にまつわる指導についても丁寧に実施した。クラス内では全班の発表を求めたが、代表班については、シンポジウムの中で、全学年の総合人文コース生の前で発表する等、低学年時から口頭発表する機会を設けることにもつながった。

また、「プチ探究」については、こちらからテーマを与え、探究活動のプロセスを体感するプログラムとしている。テーマについては、2学期の前半期と後半期にそれぞれ取組めるよう2つ用意し、実践した。第1は、神戸市市長室広報戦略部とタイアップし、「神戸市北区の放置竹林の竹を活用するプロジェクトを考える」をテーマとした実践である。基礎講義として、京都芸術大学の吉田大作准教授をお招きし、探究活動の進め方についてレクチャーを受けた後、実際の竹林の様子を見学したり、竹を活用するプロジェクトに従事されている方からの講話を受けたりしつつ、班別で竹の利活用方法についてさまざまな可能性を模索する活動を行った。最終的には、神戸市役所の大会議室にて、久元喜造市長の前で発表するイベントも用意し、自分たちの力が社会に貢献できるということが実感できる機会ともなった。その後、第2テーマとして、NPO法人Colorbathとのタイアップ授業、「ネパールで作っているコーヒーを日本の高校生に広めるには」というテーマでの探究活動を展開した。この探究活動については、Instagramの活用を必須とするという条件をつけ、いつものスライドだけによる発表と一線を画した形をとったところ、必要な情報を検索するだけでなく、アイデアをまとめて班員と共有したり、発表資料につなげるための記録を残したりする等、これまで以上に自分のタブレット端末を活用する姿が見られるようになった。また、多くの生徒が、自宅や学校で試作したり、実験をしたいと申し出たりする等、これまでの本校生の様子と比較しても、明らかに探究活動への取組状況が変わっていた。生徒が主体的に取り組んだ活動の成果から想像される通り、発表成果についても大変よく、NPO法人Colorbathの担当者からは、今後ネパールにおける実際の活動につなげていきたいとの話が得られている。生徒のレポートや感想からも、生徒の満足度も大変高い活動が展開できたと考えている。加えて、上記2つのテーマでの探究活動においては、ある班は実験や試作から提言を行い、ある班は社会的な事実を収集し発表する等、課題の解決・是正に向け、生徒がさまざまな手法でのアプローチを試みたことから、学際的に取り組む活動の先行実施としても良好な成果が得られたとも考えている。

一方、外部機関と調整しながら、引き続き今年度のような良質の課題が得られるかということや、生徒の学びの段階とタイアップ先の求める内容との調整という点は、次年度以降の課題

として挙げられる。

■クリティカルシンキング A

今年度より先行実施事業の一環として、総合人文コース2年生を対象に開講した本科目では、年間4回の読書レポート・学びの共有を課すことに加え、「読む」を発展させ、多様な課題を与えたり、「考える」「伝える」というプロセスを授業内で実践したりする等、幅広く多様な実践を行い、探究活動の充実につなげられるよう、生徒の資質・能力の向上に努めた。また、本授業においては、県教委からの指示により、本格実施以降は外部人材を活用した授業を10時間以上実施が求められるため、その点についても意識し、以下の講義を実践した。

外部人材を活用した授業の概要は以下の通りである。

1	学術論文の読み方 (5時間)	弘前大学大学院 教育学研究科 助教 若松 大輔 氏
2	クリティカルに読むということ (2時間)	弘前大学大学院 教育学研究科 助教 若松 大輔 氏
3	論じるということ (3時間)	弘前大学大学院 教育学研究科 助教 若松 大輔 氏 摂南大学 全学教育機構 教職支援センター 助教 鎌田 祥輝 氏

外部人材を活用した授業を実践することについては、謝礼・旅費にかかる費用面の工面に加え、授業について綿密な打合せが欠かせないこと、講師の都合や学びの進度、探究活動の進捗状況等に合わせるため、授業の実施日・時間の調整等、多くの課題があると考えている。

■シンポジウム (7月13日)

本校では、「ことばのカシンポジウム」という行事を、総合人文コース独自の行事の中で最も大きなものとして位置づけ、7月に実施している。同シンポジウムでは、社会で活躍している卒業生をお招きし、基調講演をいただいた後、生徒がパネリストを務めつつ、会場も巻き込みながらパネルディスカッションをするものである。今後、新学科の生徒を対象とした行事として実施することを念頭に、探究成果発表を含めて開催した。

■グローバルコンシャスデイ (12月15日)

普通科改革支援事業の成果を主対象となっている総合人文コース(令和6年度より文理探究科に改編)だけでなく、全校に広げることを目的に、コンソーシアムメンバーの協力を得て12月に初めてグローバルコンシャスデイと銘打った外部講師による授業を、第2学年生徒全員を対象として行った。

○対象 第2学年全生徒(新学科の母体の総合人文コース1クラスを含む8クラス)

○推進方法

- ・6月：本年度第1回コンソーシアム会議にて、学問・地域・国際に存在する各課題を通じて生徒達の日々の学びが社会に繋がる認識を向上させることを趣旨として協力を仰ぐ。
- ・9月～11月：コンソーシアムメンバーの機関を中心に講師を依頼し、内容を調整。
- ・11月：第2回コンソーシアム会議にて、講座一覧と日程を提示し、日程等を協議。
- ・12月5日：生徒にWebツールを通じて講座を案内し、受講希望を集約。

○当日日程 12月15日(金) 8:45～12:35 実施

8:45～ 9:00 生徒教室移動、講師準備

9:00～11:00 講義及びワークショップ(各講座にて時間配分を行い、適宜休憩)

11:15～12:00 生徒は自教室でふりかえりシート作成

12:00～12:35 ふりかえりの共有、テーブル発表

○講座一覧

	所 属	講師名	演 題
1	神戸大学人文学研究科	菊地 真 准教授	空間の履歴をひもとく：“古い地図”からわかること
2	兵庫県立人と自然の博物館	石田弘明 副館長・教授	生物多様性の危機と保全
3	神戸市東灘区役所総務部地域協働課	谷口佳二 係長	区を活性化するイベント企画に挑戦!
4	国際 NPO 法人 Colorbath	吉川雄介 代表、櫻井かおり PR ディレクター	国際協力とソーシャルビジネス：様々な働き方を知ろう
5	株式会社 JTB 神戸支店神戸教育旅行センター	藤田慎吾 教育営業課長	観光事業のチカラで地域課題を解決
6	認定 NPO 法人 コミュニティ・サポートセンター神戸	飛田敦子 事務局長	「社会の課題」に一步近づく～NPO 支援の現場から見てきたもの～
7	株式会社ウエルアップ	尾花弘教 代表取締役社長	みんなのインフラはみんなで守る
8	株式会社マルヤナギ小倉屋	柳本勇治 代表取締役社長	食品メーカーから見た日本の農業の課題
9	日本赤十字社 兵庫県赤十字血液センター	高垣雄一 主事	日本赤十字社の活動・歴史 そして献血について
10	NATSUKI HOSOKAWA DESIGN	ほそかわ なつき アートディレクター/デザイナー	デザインチームとクライアントで、ショップカード/名刺をつくる
11	摂南大学全学教育支援機構 教職支援センター	鎌田祥輝 助教	哲学的・人文科学的探究への招待
12	合同会社ユブネ	東善仁 編集者/ディレクター	地域サッカークラブのアンセム(クラブの歌)をつくろう

○成果

<生徒レポートより抜粋>

- ・なぜ時代によって地図の書き方に変化が生まれたのか。今回取り扱われた明治よりもさらに昔の地図についても調べ、それを自分の興味のある歴史学と組み合わせると、より時代背景など社会情勢の変化も理解することができ、面白いのではないかと思います。
- ・生物多様性は私たちが思っているような種の多様性だけではなく、他にも遺伝子の多様性、生態系の多様性もあるということを知って驚きました。
- ・印象的だったことは、イベントや企画を行うためには様々な条件の中で最善策を見つけ出

さなければならぬことです。

- ・「人間は頭で認識しているものを見ている」という言葉が印象に残りました。だからアフリカは汚いと思うと嫌なところばかり見てしまうのだそうです。実際は良いところがたくさんあって、私たちと同じように勉強している子どももたくさんいるのだそうです。
- ・班で話し合っただけでプランを立てることによって、自分の考えるようなプランとは違ったような方向から物事を見ているような人と意見を交わすことで新たな発見につながって良かったです。
- ・社会や地域の課題は何かと問われると、地球温暖化や戦争、少子高齢化など規模の大きな問題を挙げがちになるが、自分の身のまわりのもっと小さな規模の場所でも課題がたくさんあるということを知った。
- ・ライフラインをどうやって守っていくかを考える時に、例えばルンバやアレクサを掛け合わせるなどのことがあるというような掛け算方式で考えることが重要と学んでなるほどと思った。
- ・どの大豆を使用するかの時に、各地から数十種類の大豆を仕入れてすべて試して一番おいしいかつ有機であるものを選び商品化したことも印象に残った。
- ・「売血」というのが印象的でした。ボランティアがあたり前だと思っていたけど、そういうのが職業になっていたのが衝撃的でした。
- ・一人だけじゃ考えられないであろうデザインをたくさん見ることができて、今後描く絵の参考にさせてもらいました。一人のデザインと共に、多人数で考えるデザインをこれから重要視していきたいと思います。
- ・形而上学で例にあげられた、ある時点にいる「わたし」と別の時点における「わたし」が同一人物かどうか判断する基準は何なのか、がとても印象に残りました。
- ・いろいろなサッカークラブのアンセムはたくさん聞いてきたけど、歌詞は気にして聞いていなかった。今回自分たちが実際に歌詞を作ったことで、いろいろな人の気持ちがこもって作られているんだなと思った。

<講師感想>

- ・講座の内容がきちんと頭の中に落ちた状態で実践に臨んでいた様子も伺え、出来上がった名刺のレベルの高さに納得がきました。
- ・皆さんの理解力・吸収力の高さに感心しています。今回の講義を聞いてくれた人たちの中から、将来、日本の農業の課題に取り組んでくれる人が出来れば嬉しいです。
- ・クラスでの発表会も少し聴講させていただきましたが、一生懸命自分の受けた講義の説明をする生徒のみなさまの姿は、言葉で表す以上に感銘を受けました。
- ・私たちにとっても、生徒さんやほかの講師の方との交流の中で多くの学びがありました。

<まとめと今後の課題>

- ・普通科改革支援事業の探究活動への取組の成果を全生徒に広げることを趣旨として行っただけで、生徒は様々な社会課題や問いを発見・認識でき、成果を上げることができた。
- ・コンソーシアムメンバーに同時に講座をお願いすることは、学校への協力や各々の特性を互いに認識していただくことができ、コンソーシアムの運営として大きな価値があった。
- ・生徒だけでなく講師からも非常に肯定的な感想が聞かれ、協働的な取組と評価できる。
- ・生徒の興味・関心をカバーし1講座の人数を抑えるために、講座数を増加させたいが、講師料と本校職員数の制約も大きい。

1-8 探究成果発表会

■探究Ⅱ中間発表（10月26日）

本校には、探究活動を軸とした学びに特化した「総合人文コース」（各学年・1クラス）以外にも、普通科に7クラス（一般クラス）の生徒が所属している。一般クラス2年生を対象とした「探究Ⅱ」（総合的な探究の時間）の学びについては、新学習指導要領の実施に伴い、今年度から新たに開講することとなった。「探究Ⅱ」においては、総合人文コースでの実践を中心に培ってきたノウハウを活かしつつ、週1時間で探究活動を実践している。今年度は、その中間発表に、同じ2年生の総合人文コースの生徒も参加することとした。総合人文コースの中には、一般クラスの生徒がどのような探究活動に取り組んでいるのか知りたかったという生徒もおり、両者が探究活動を介して交流するのは意義のあることだと考えている。しかし、総合人文コースの生徒が積極的に質問をする場面が少なかったり、「探究Ⅱ」の学びがまだまだ不十分な点があったり、機器のトラブルで発表が中断したクラスがある等、今後の課題も挙げられている。

■課題研究発表会（3月16日）

3月には総合人文コースの探究成果に関する校内発表会を実施し、地域の中학생等にも公開。

■御影セッション（3月19日）

本校では、昨年度に引き続き、学年・所属クラス・類型の垣根を越えて、探究の成果を発表するイベントを実施した。今年度は、本校内での実施をと計画していたが、計画について生徒に伝えたところ、生徒から「どうしても昨年度と同様に校外会場で実施したい」との声が多数あり、検討・調整した結果、他の行事等の日程を移動させ、神戸サンボーホールで実施することとした。

■校外での課題研究発表

総合人文コースの課題探究の成果を以下の発表会に参加して、発表した。

神戸大学主催 地域探究プロジェクト発表会	6月27日
関西学院大学総合政策学部主催リサーチフェア 2023	11月18日
甲南大学リサーチフェスタ 2023	12月17日
兵庫県教委主催 兵庫県立高等学校探究活動研究会	2月10日
兵庫県立人と自然の博物館主催 共生のひろば	2月11日
神戸市東灘区役所×御影高校 意見交換会	3月15日

■県外高等学校（岡山学芸館高等学校）との交流発表会

教員は枠組みだけを調整し、その他は生徒が主体となって、計画・進行する交流会を実施。

第1回	本校会場	7月29日
第2回	岡山学芸館高校会場	3月18日

岡山学芸館高校への研修については、発表会の計画・運営に加え、研修ルートについても、コンソーシアム参画団体の株式会社JTBとタイアップし、生徒が計画立案するとともに、業者との打合せを行い、実行・運営する。今年度は、岡山、倉敷、牛窓の3つのコースに分かれ、現地でのフィールドワークを実施した後に、会場校に入ることにした。

1-9 課題・次年度への展望

・クリエイション講座の講師とコンソーシアムとの関係性

グローバルコンシャスデイ等、他の事業等で本校の教育活動に関わってくださるコンソーシアム参画団体はあるが、今年度実施したクリエイション講座のうち、本校のコンソーシアムに入ってきている団体は一部にとどまっている。コーディネーターを中心に、多様な講座を展開しているからでもあるが、令和6年度は、コンソーシアム加入の団体の講座も実施しながら、コンソーシアムそのものの拡充を図りたいと考えている。また、グローバルコンシャスデイ開催時には、外部講師のジェンダーバランスについて留意する方がよいという意見もいただいている。今後の検討課題としたい。

・各種講座の講師へのフィードバック

生徒の感想については、各種講義を担当した講師に後日フィードバックし、次年度以降の講義につなげていただけるよう工夫を重ねたが、担当・同席した教員からのフィードバックは不十分である。事後の打合せ時間も確保しながら、次年度以降の改善すべき内容として挙げたい。

・生徒の様子を外部公開

本校では、教員による生徒の学びの成果を公表については積極的に実施しているが、先行実施事業や発表会等の様子を生徒の保護者以外の外部の方に公開することができていない。会場のキャパシティ等、考慮すべき点はあるが、生徒の学びを外部公開することについても、可能な限り対応したいと考えている。

2 管理機関による事業の実施体制や管理方法

本県では、令和4年3月に策定した「県立高等学校教育改革第三次実施計画」において、普通科新学科設置の方向性を明確に打ち出し、普通科コースの改編を軸とした全県規模の配置を計画的に推進している。

県立御影高等学校と県立柏原高等学校は、普通科コースの中で、いち早く普通科新学科への改編を意識したカリキュラム等の研究を組織的に行っており、高校教育課とも数回にわたって調整を進めてきた経緯があることから、両校をそれぞれ学際領域に関する学科、地域社会に関する学科設置の実践モデル校として位置づけ、新学科設置に向け取り組んでいる。

事業の実施にあたっては高校教育課内に学科構想・教育課程開発担当、及び探究推進に係る設備・備品担当を置き、両校の支援を行ってきた。

県立御影高等学校には、運営指導委員会等に高校教育課担当指導主事を派遣し、大学・企業・関係機関等の専門家と意見交換を図りながら、事業の成果と評価をもとに指導・助言を行った。

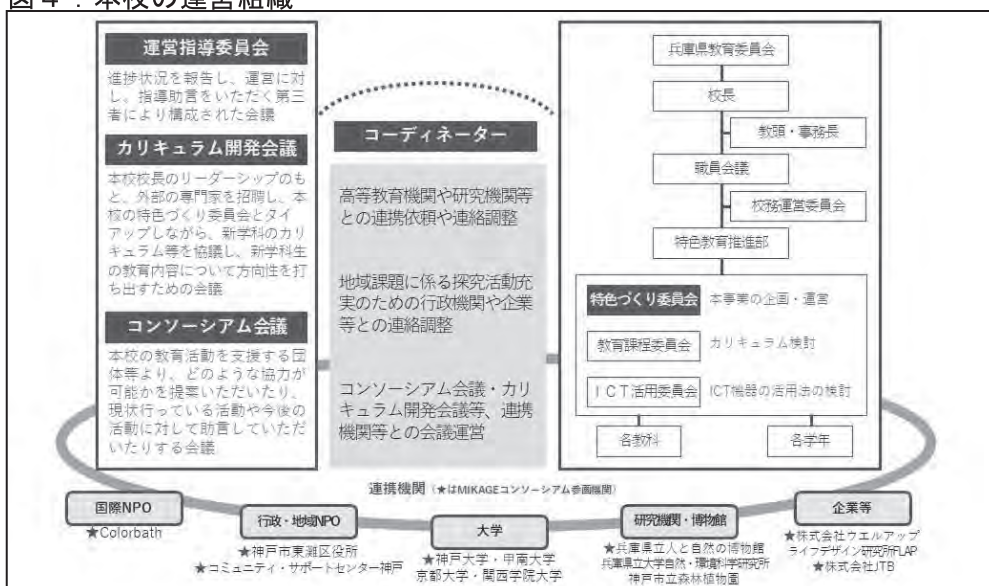
活動日程	活動内容
4月26日	学校管理職・担当教員・コーディネーターと管理機関担当者による打合せ・課題の共有
5月17日	運営指導委員会を組織
5月31日	第1回運営指導委員会 ・令和4年度の取組と成果の分析、令和5年度の事業方針の説明、今後の事業内容に対する指導助言
6月30日	第1回コンソーシアム会議

	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に各団体・機関が実施していただいた事業の成果と課題 ・新学科での取組（グローバルコンシヤスデイ）に向けての協議
10月27日	<p>第2回運営指導委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度の取組と進捗状況の報告、今後の事業内容についての指導助言
11月24日	<p>第2回コンソーシアム会議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普通科改革支援事業の進捗状況 ・グローバルコンシヤスデイについて
12月15日	<p>探究スタートアップ研修会（普通科新学科設置を目指す学校の教員向け研修会）を主催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・探究活動が時代に必要とされている社会的背景に関して理解を深める。 ・教員自身が探究の基礎をなす活動を体感することにより、探究活動における指導のあり方を考察する契機とする。
2月10日	<p>令和5年度兵庫県立高等学校探究活動研究会（講演会、ポスターセッション、ワークショップ）を主催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の探究成果発表の場を提供するとともに、教員、生徒の探究を深めるための学びの機会を提供
2月27日	<p>第3回運営指導委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の取組について、成果・評価・課題を総括・指導助言 ・来年度の取組について、概要を説明し、協力体制について打合せ

3 高等学校における事業の実施体制や管理方法について

本校は校長のリーダーシップのもと、コーディネーターを活用しながら、以下のような組織を構築し、本事業について運営・管理している。特色教育推進部が中心となって本事業の運営を取り扱うが、その方向性を諮問するための委員会として、週1回「特色づくり委員会」を開催することで、各学年や各部署との調整が大変円滑に進んでいる。次年度もこの体制を維持するとともに、より多くの教員がコミット感をもって本事業運営に参加できるような仕掛けや、新学科設置に向けた体制づくりについても検討したい。

図4：本校の運営組織



4 運営指導委員会の体制および取組

■運営指導委員会の体制

氏名	所属
(委員長) 甲元 一也	甲南大学フロンティアサイエンス学部 教授
(副委員長) 菊地 真	神戸大学文学部 准教授
前田 哲男	関西国際大学国際コミュニケーション学部 准教授
椎木 睦美	NPO 法人 Colorbath ディレクター
柳本 勇次	株式会社マルヤナギ小倉屋 社長
永野 喜久	神戸市東灘区まちづくり課長
新谷 浩一	兵庫県教育委員会高校教育課長

■運営指導委員会の取組

	実施日	実施内容
第1回	5月31日	<ul style="list-style-type: none"> 普通科改革支援事業のロードマップと今年度の進め方 総合人文コースの生徒の変化 現在の取り組みと今後の計画・ビジョンについての指導・助言
第2回	10月27日	<ul style="list-style-type: none"> 普通科改革支援事業の進捗状況 全国の発表会・研修会の状況 現在の取組と今後の計画・ビジョンについての指導・助言
第3回	2月27日	<ul style="list-style-type: none"> 学校としての推進についての指導・助言 来年度のカリキュラム、探究活動の進め方への指導・助言 現在の取組と今後の計画・ビジョンについての指導・助言

5 コンソーシアムの体制および取組

本事業の実施2年目となる今年度は、参画団体の一部変更を行った。そして、昨年度組織したコンソーシアムを実質的に動かし始めることに加え、本事業の取組みを総合人文コースに所属している生徒だけでなく、一般クラスに所属している生徒へも還元することも鑑み、「グローバルコンシヤスデイ」という複数の多様な外部団体による授業日を設定した。コンソーシアム会議では、その「グローバルコンシヤスデイ」の成功に向けて、協力いただける内容についての協議を中心に実施することができた。

■コンソーシアムの体制

所属	氏名
神戸大学文学部	学部長 長坂 一郎
神戸大学国際人間科学部環境共生学科	教授 伊藤 真之
県立人と自然の博物館（兵庫県立大学自然・環境科学研究所）	副館長 石田 弘明
神戸市東灘区役所	区長 中田 裕子
国際NPO Colorbath	代表 吉川 雄介
株式会社JTB神戸支店 教育旅行センター	センター長 上野 雄一郎
NPO コミュニティ・サポートセンター神戸	代表 中村 順子
株式会社ウエルアップ	社長 尾花 弘教
兵庫県教育委員会高校教育課	課長 新谷 浩一

■コンソーシアム会議の取組

	実施日	実施内容
第1回	6月30日	<ul style="list-style-type: none"> ・普通科改革支援事業のロードマップ ・昨年度に各団体・機関が実施していただいた事業の成果と課題 ・新学科での取組（グローバルコンシャスデイ）に向けての協議 ・新学科設置に向けての要望・意見
第2回	11月24日	<ul style="list-style-type: none"> ・普通科改革支援事業の進捗状況 ・グローバルコンシャスデイについて
第3回	12月15日	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバルコンシャスデイ運営に関する振り返り ・次年度の実施に向けた要望・意見 ※コンソーシアム参画団体以外の講義担当者も出席

6 コーディネーターの配置および活動状況

本校では、本事業を円滑に進めていくにあたり、以下の3名のコーディネーターを非常勤（週7時間程度）で配置し、特色教育推進部の職員として活動している。

6-0 コーディネーター

竹中 敏浩 氏	兵庫県立人と自然の博物館特任研究員。専門は地質学。県立三木東高校・北摂三田高校長を歴任、定年退職後、同博物館専門員を経て現職。博物館でも高校との博学連携や大学・研究機関等とのコーディネートを担当。武庫川女子大学と関西学院大学の非常勤講師も兼任。
東 善仁 氏	合同会社ユブネ共同代表。神戸・奈良・島根を拠点とし、地域プロジェクトの企画運営を担う。神戸市西区の市民主導イベントの企画運営、長田区の市民ライター伴走、垂水区塩屋の空き家活用モデル事業、奈良県宇陀市の移住・起業支援事業等を担当。
林 留里 氏	立命館大学経営学研究科修士課程2年在学中。経営学部在学中に国際NPO法人Colorbathとのつながりから大阪府下の公立高校の探究活動に参加。オーストリアで開催された国際学会24th CINet Conferenceにて探究的な学びに関する発表を行う。「学び」と「経営」の融合について研究を進めている。

6-1 コーディネーターの業務分担

竹中 敏浩 氏	<ul style="list-style-type: none"> ・3つの会議（運営指導委員会、カリキュラム開発会議、コンソーシアム会議）のコーディネート、ファシリテーション ・ビルドアップレクチャー、グローバルコンシャスデイの企画、運営 ・本事業や特色教育推進部会、特色づくり委員会での積極的なコミットメント
東 善仁 氏	<ul style="list-style-type: none"> ・クリエイション講座（STEAM講座）のコーディネート ・クリエイション講座案内文作成 ・本事業に関わるメンバーの連絡ツールの整備、運用
林 留里 氏	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム開発会議・コンソーシアム会議・運営指導委員会議事録作成 ・生徒探究活動の伴走および記録作成 ・高大連携授業の調整、新学科広報のための中学校訪問の調整

6-2 コーディネーターの勤務記録

	竹中コーディネーター	東コーディネーター	林コーディネーター
	主な取組事項 (時数)	主な取組事項 (時数)	主な取組事項 (時数)
4月	県教育委員会普通科支援事業担当課訪問、事業計画打合せ (17時間)	年間業務計画打合せ、勤務計画と協働起業のピックアップ (4時間)	「探究Ⅱ」授業の伴走 (15時間)
5月	第1回運営指導委員会準備・会議運営、リサーチルーム準備・調整 (30時間)	クリエイション講座講師の調整・依頼書作成、内容検討、各社挨拶 (18時間)	「探究Ⅱ」授業の伴走、授業記録作成、中学訪問調整、高大連携授業調整 (13時間)
6月	第1回コンソーシアム会議調整・運営、クリエイション講座準備 (31時間)	クリエイション講座各講座調整・打合せ・コンソーシアム会議調整 (17.5時間)	高大連携授業調整、コンソーシアム会議議事録作成、「探究Ⅱ」授業の伴走 (24時間)
7月	クリエイション講座連絡調整、グローバルコンシヤスデイ調整 (21時間)	クリエイション講座生徒チラシ作成・講座調整、全国CN研修参加 (27時間)	高大連携授業調整・高大連携マニュアル作成、全国CN研修参加 (12.5時間)
8月	クリエイション講座運営・引率 (16時間)	クリエイション講座調整・準備・運営、講座参加生徒引率 (38時間)	クリエイション講座制と引率、高大連携授業調整・依頼書作成 (24時間)
9月	クリエイション講座まとめ、第2回運営指導委員会調整・案内 (22時間)	クリエイション講座講師事後処理調整、実施報告書作成 (16時間)	高大連携授業調整、「探究Ⅱ」授業の伴走、全国CN研修参加 (17時間)
10月	ビルドアップレクチャー調整・運営、第2回運営指導委員会運営 (20時間)	クリエイション講座講師事後処理調整、実施報告書作成 (6時間)	「探究Ⅱ」授業の伴走、探究活動中間発表会指導、会議議事録作成 (17時間)
11月	グローバルコンシヤスデイ調整・準備、コンソーシアム会議運営 (33時間)	グローバルコンシヤスデイ講座設計、全国CN研修参加 (35時間)	「探究Ⅱ」授業の伴走、ビルドアップレクチャー調整、全国CN研修参加 (42時間)
12月	グローバルコンシヤスデイ調整・準備・運営・まとめ (19時間)	報告書作成打合せ、オープンハイスクール広報打合せ (12時間)	「探究Ⅱ」授業の伴走、報告書作成打合せ (9時間)
1月	報告書原稿執筆、第3回運営指導委員会調整・準備 (22時間)	報告書原稿執筆、noteによる広報のあり方の検討 (27時間)	報告書資料作成、「探究Ⅱ」授業の伴走、カリキュラム開発会議議事録作成 (17時間)
2月	情報機器等を利用した探究活動検討、第3回運営指導委員会運営 (25時間)	報告書まとめ、noteによる広報のあり方の検討 (37.5時間)	運営指導委員会議事録作成、TRYプロジェクト企画立案 (36時間)
3月	報告書まとめ、情報機器等を利用した探究活動検討 (24時間)	報告書まとめ、noteによる広報のあり方の検討、次年度事業の検討 (42時間)	TRYプロジェクト調整・準備、探究活動発表会の指導伴走 (48時間)

6-3 課題・次年度への展望

普通科改革支援事業に伴って配置したコーディネーターも2年を経過した。3名のコーディネーターそれぞれに役割を分担しながら、本校の学際領域学科すなわち文理探究科の設置と学校全体の探究的な学びの充実に尽力し、探究活動における大学や社会との連携・深化という成果を上げた。

ただし、非常勤で年280時間、平均では週1日弱という予算制限もあり、次の3点の課題がある。

①コーディネーションのための渉外や探究活動の伴走が勤務時間や場所によって大きく制限される、②勤務時間が短いために3名の勤務時間を重ねるコアタイムが設定できず3名間の情報共有も本務教員の負担となっている、③非常勤職員であるため校内のインターネットデバイスやネットワークストレージにアクセスできず、外部との渉外や校内のデータ共有に大きく支障をきたしている。

次年度令和6年度では、兵庫県教育委員会へ勤務条件の改善を働きかけ、常勤もしくは非常勤であっても年間制限の引上げを要望して、①～③の課題解決を図りたい。それが進まない場合は、デジタル活用によって①②の軽減を模索するとともに、非常勤であってもコーディネーターは例外職員として校内のネットワーク資産が活用できるよう県教育委員会には働きかけていきたいと考えている。

7 新学科の設置及び設置に向けた検討の関係者への説明の実施

令和4年3月16日に県教委による記者発表にて、文理探究科の設置が公表された。以降、学区内の中学校71校に訪問し、文理探究科に関して説明したことに加え、以下のように、学校説明会等にて、文理探究科の開設や本校の取組、および、普通科新学科に関する取組そのものについて、広報活動を実施している。

■本校主催の学校説明会（10日間・20回）

1	第1回オープンハイスクール	学校・学科概要説明	3回	申込者数 970
2	校外学校説明会（北区文化センター）		2回	34
3	校外学校説明会（西区文化センター）		2回	17
4	校外学校説明会（長田区文化センター）		2回	70
5	第1回文理探究科説明会		2回	353
6	第2回オープンハイスクール		2回	1270
7	授業公開日		2回	42
8	第2回文理探究科説明会		2回	120
9	第3回オープンハイスクール		2回	400
10	課題研究発表会		1回	120

■中学校主催の進路説明会（9校）

芦屋市立潮見中学校、神戸市立御影中学校、神戸市立有野北中学校、神戸市立葺合中学校、神戸市立本山中学校、神戸市立駒ヶ林中学校、神戸市立烏帽子中学校、神戸市立住吉中学校、神戸市立鷹取中学校

■その他 学習塾等が主催する高校説明会にも参加（5日間）

8 管理機関における事業全体の成果検証、評価

令和4年3月に策定した「県立高等学校教育改革第三次実施計画」において、普通科新学科設置については、「普通科コースからの改編、または発展的統合を行う学校への配置を基本とし、1学年1学級とする」と定めたことより、県立御影高等学校は、普通科総合人文コースにおいて、探究活動に特化したカリキュラム開発を先行して進めてきたことから、令和6年度に新学科（文理探究科）を設置することとし、そのための支援をしてきた。

県立御影高等学校においては、令和4年度に新学科設置に向けた校内体制整備等を進めたことで、本年度はカリキュラムや探究プログラム、学校設定科目の工夫等の研究を進めることができたと評価している。引き続き、運営指導委員会等に参加し、適宜指導・助言を行うことで、県立御影高等学校の文理探究科の学びが、県全体の普通科新学科の学びを牽引していくような研究を進めることができるよう支援していく。

9 管理機関による支援体制（予算・人員配置等）

県立御影高等学校には、令和6年度の新学科設置に向けた支援として、探究活動を効果的に取り組むことを目的とした「探究ルーム」の整備に400万円の支援を行った。また、本事業の国費に加え本県からも独自に40万円の予算措置を行い、より充実した取組となるよう支援した。

なお、令和6年度については学科開設にあたり2名の加配をすることとしている。

10 成果普及のための取組

下記の通り、視察の依頼に対応するとともに、随時、本校ウェブサイトにて本事業に関わる活動の報告を積極的に広報した。視察のため来校した関係者とはそれぞれ情報交換を行い、各校の先進的な取組も拝聴し、本校の取組を検討する上での参考とすることができている。

■視察来校対応

実施日	所属	来校者数	主なご質問・視察事項
5月1日	兵庫県立伊川谷北高等学校	1名	・文理探究科への改編、および、取組について
7月21日	兵庫県立尼崎高等学校	3名	・リサーチルーム改修、および、現状について
8月24日	佐賀県立唐津西高等学校	2名	・文理探究科における探究活動の内容や学校としての目標 ・普通科改革に向けた校内での取組や状況
9月6日	佐賀県立鹿島高等学校	2名	・普通科および文理探究科の教育活動について ・総合的な探究の時間の指導計画と内容および評価について
9月13日	市立札幌藻岩高等学校	1名	・文理探究科における教育活動とその実践、および、検討の過程について ・総合的な探究の時間の取組について
9月29日	鹿児島県立鹿児島中央高等学校	1名	・総合的な探究の時間の取組について
11月9日	三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社	2名	・コーディネーター、教員へのインタビュー ※文科省より長屋様・今野様もご同行 ※「高校魅力化評価システム」の分析に関する

			研修会も実施
12月1日	京都府立山城高等学校	2名	・普通科改革支援事業、および、総合的な探究の時間について
2月1日	新潟県教育庁	3名	・普通科改革支援事業について ・文理探究科について
3月4日	京都府立園部高等学校	3名	・文理探究科について ・外部機関との連携について

※その他、伊丹市立伊丹高等学校より文理探究科の取組等に関する電話での聞き取りの対応、兵庫県立夢野台高等学校他よりリサーチルームに関する視察、等にも対応。

■全国研修等での事例発表

実施日	研修会等名（会場）
9月22日	令和5年度 普通科改革支援事業 指定校発表会（京都市立開建高等学校）
2月22日	令和5年度 高校コーディネーター全国フォーラム（文部科学省東館講堂）

11 国の指定終了後の取組継続のための仕組みづくりに関する取組（特に予算・人員配置について）

○ MIKAGE コンソーシアムの継続的な連携が続く仕組みづくり

学際領域学科の特色ある学びを支えるのは、コンソーシアムを構築する機関等と継続的に連携が続く仕組みづくりである。国の指定期間内で、それぞれの機関と双方にとってWin-Winの関係になる連携のスタイルを確立し、学校内の学びから学校外での学びへと発展できる「共創した学び」がかなう更なる仕組みを構築することが大切である。今年度、コンソーシアムと連携した新たな取組（グローバルコンシャスデイ）を実施したことで、関係機関はこれまで以上にコンソーシアムメンバーとしての意識、今後も連携することの意識を高めることができた。

一方、充実した「学校内の学びから学校外での学びへと発展できる『共創した学び』」となる探究活動を展開するうえで、経費の問題は大きな課題である。事業終了後を視野に経費の削減等について、関係する機関と連携を検討していく。

○ コーディネーター機能の維持

指定期間後のコーディネーター機能の維持については、コンソーシアム内の大学または企業からの継続的な人員配置が行えるようWin-Winの関係の構築に取り組む。

一方、来年度から学際領域学科がスタートするにあたり、来年度、教員加配を2名いただく予定である。普通科改革支援事業に2年間取組んできた中で、コーディネーターは教員以外の方が務め、学校に新しい風を吹き込むことがベターであると考えている。現段階では教員へのコーディネーター機能の移行を検討していかなければならないと考えている。